

いずみさの
教育



問合先
学校教育課

「キャリア教育」について

平成11年12月、中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」で、「キャリア教育」という文言が登場し、その必要性が提唱されました。この背景には、20世紀後半におきた地球規模の情報技術革新に起因する社会経済・産業的環境の国際化、雇用の多様化・流動化など、大きな変化に伴う子どもたち自らの将来のとらえ方の大きな変化があります。子どもたちは、自分の将来を考えるのに役立つ理想とする大人のモデルが見つけにくく、自らの将来に向けて希望あふれる夢を描くことも容易ではなくなっています。このような中、キャリア教育の重要性が叫ばれるようになったのです。

平成23年1月、「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」で、「キャリア教育」の定義として「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」とし、「キャリア発達」とは「自己の知的、身体的、情緒的、社会的な特徴を一人一人の生き方として統合していく過程である。」としています。このように「キャリア教育」の必要性が取りあげられています。本市の各中学校区においてもさまざまな取組が進められています。

それぞれの中学校区において、こども園と小・中学校が連携し、「どのような子どもにも成長してほしいか。社会にでるまでにどのような力をつけてもらいたいのか。」を共有し、系統立てた「キャリア教育全体指導計画」を作成し、「めざす子ども像」を設定しています。さらに、各中学校区では、この全体計画を参考にし、子どもたちに寄り添い、目の前の子どもたちが「自己肯定感・自己有用感」を高めることができるよう、また、次の学年へつなげることができるように取り組んでいます。子どもたちが「自己実現・自己の確立」に向けて進んでいくことができるよう、それぞれの学校園において「キャリア教育」を進めています。

学校園紹介



「ことばの力」と「豊かな心」の育成の取組
～上之郷小学校～

●平成29年度は大阪府教委のAS（アクティブ・スクール）事業、平成30年度はTM（確かな学び）事業を受けて、「ことばの力」を身に付けてコミュニケーション能力を育てることを目標に、学習規律が行き届いた授業づくりや家庭学習に取り組んでいます。特に、自分で考えたことを「ノートにまとめる」「自分のことばで相手に伝える」ことを目標に置いています。そのために、

- ①府教委作の「ことばの力」教材の活用で基礎を身につける。
 - ②ノートには、考えた道筋がわかるように書く。
 - ③今年から「特別の教科」となった道徳の時間において、自分の考えた意見をはっきりみんなに伝える。
- というように、具体的に取り組んでいます。これからの積み重ねにより、子どもたちに実生活に生きる「ことばの力」を育てていきたいと考えています。

●2月に、大阪観光大学吹奏楽部に来ていただき、演奏会を開催しました。身近な大学生のお兄ちゃんお姉ちゃんが奏でてくれる楽器の音色に児童は大喜びし、いろいろな楽器の音色を知ることができました。指揮者体験もさせていただき、指揮棒の振り方、速さにより曲が全く違うものになることを実感できました。また、恋ダンスの演奏の時には運動会を思い出し、低学年は自然にダンスを始めました。さらに、行進曲風にアレンジしてくれた上之郷小学校歌の演奏にあわせて、いつもとは違う軽快な気持ちで大きな声で歌うことができました。その後、各学級に大学生を招き、給食を一緒に食べ、楽しいひとときを過ごすことができました。このような体験を積み重ねながら、情操豊かな心も育てていきたいです。



自然にふれる 自然に学ぶ
～大木小学校～

大木小学校は、豊かな自然を背景に、地域のみなさんや保護者との協働の中、少人数の学校である特色を最大限に生かしながら教育活動を進めている学校です。特認校制度を活用して、市内各地から集まった子どもたちは、四季の変化を体いっぱい感じながら、笑顔いっぱい毎日過ごしています。子どもたちから聞こえてくる元気な笑い声は、学校中に、そして大木の地域中に響いています。

春の自然体験学習は「わらび採り・わらびご飯」から始まります。今年の春は温かく、わらびの成長も早かったのですが、地域の方がわらびを他の人に持ち帰られないように声をかけてくれたり、柵をしてくれたりして守っていただきました。子どもたちは春の温かさに加えて、地域の人びとの温かさを感じながら、わらび採りを楽しみました。わらび採りには全校縦割り班で向かいます。新入生にとって初めての体験でしたが、高学年のリーダーの指示に従って池の堤へ到着。急な斜面での活動でしたが、先輩が新入生の体を支えたり、指示をしたりしながら一緒に採っていました。

集めたわらびは、高学年の子どもたちが藁を燃やして作った灰汁であく抜きをし、翌日わらびご飯を炊いておにぎりにしました。自分たちで採ったわらびが先輩たちの手によっておいしいおにぎりに変わり、全校に笑顔が広がりました。



レンゲ摘み、川探検、大木のまち探検、田植え、ジャガイモ掘り、そしてホテル観賞へと続く自然体験学習は、子どもたちの「心をたがやす」取組として、今後も大切にしていきたいと思っています。